

## 東京学芸大学附属国際中等教育学校 第9回公開研究会「全体提案」

「国際教養」は、  
ISSの育てたい生徒像を実現するための基盤です。

国際教養委員会 委員長 藤木正史

# 1. 「国際教養」とは

国際社会の中で共生・共存できる力を育成するために設定された  
本校独自の学習領域

## ①実はあれも、そしてこれも、「国際教養」（教育課程上の位置付け）

前期課程…総合的な学習の時間＋特別活動

後期課程…総合的な探究の時間＋特別活動＋学校設定教科・科目

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
名前ボックス 特別活動	学級活動	学級活動	学級活動	ホームルーム活動	ホームルーム活動	ホームルーム活動
総合的な学習/ 探究の時間	国際1	国際2	国際3〔PP含〕	国際4〔PP含〕	国際5〔総合的な探究の時間〕	国際6〔総合的な探究の時間〕
	LE1(2時間)	LE2(2時間)	国際3〔PreIM〕			
教科〔国際〕						国際A(2単位)
						国際B(1単位)
教科〔外国語〕				GI/他言語	GI/他言語	
教科〔理数科〕					理数探究〔国際5と同時開講〕	理数探究〔国際6と同時開講〕

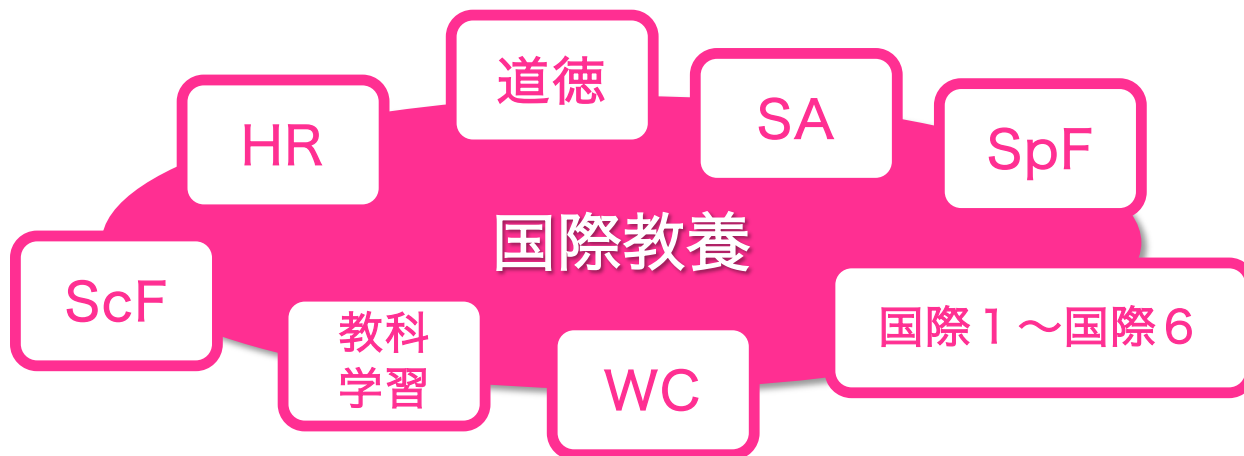
## ②「国際1」～「国際6」として各学年に1時間ずつ設定

## ③本校の教育活動全体にわたる理念や視点として“三本柱”を設定

# 1. 「国際教養」とは

## 「国際教養」

ISSのすべての活動の  
中心・軸となっています。



教員側  
指導内容を構成する視点

## 「国際教養」の“三本柱”

ISS生が、現代的な諸課題（事象）を捉える視点！

- **国際理解**… 自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
- **人間理解**… 社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。
- **理数探究**… 身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点で捉え、社会に活用していく方法について考える。

## 2. 「国際教養」の目標

平成29/30年告示の学習指導要領を受けて

探究的な見方・考え方を働かせ、国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題についての総合的な学習を通して、主体的・協働的に課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

1. **【知識及び技能】** 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. **【思考力・表現力・判断力等】** 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. **【学びに向かう力，人間性等】** 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

## 2. 「国際教養」の目標：学年ごとに育成する力 開校当初に設定

学年	目標
1年	様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対しての耐性を養う。
2年	様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
3年	様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
4年	自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、課題について調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
5年	異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
6年	社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の「課題」について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

各学年で、国際教養の「指導内容」を構成する指針

## 3-1. 「国際教養」のカリキュラム構成：基本的な考え方

### ① 3つの段階

前期課程・後期課程ではなく、

基礎期（1・2年生）／充実期（3・4年生）  
発展期（5・6年生）

と分けて考える。

### ② 2つのカテゴリ

**[コア]** 学校として指導すべきこと

\*学校として「国際教養」の体系化＝共通して指導すべきこと

**[オプション]** 学年として色を出す部分

\*各学年が、様々な新しい取り組みを実施

## 3-2. 「国際教養」のカリキュラム構成：国際1～国際6（基本）

	1学期	2学期	3学期
基礎期	国際1 1年生	富士ワークキャンプ	富士
	国際2 2年生	統計グラフコンクール（数学科） インタビュー調査（Jr.インターンシップ）	国際教養講座：国際理解 「コバルト会議」
充実期	国際3 3年生	沖縄ワークキャンプ	沖縄
	国際4 3年生	パーソナルプロジェクト	パーソナルプロジェクト
発展期	国際5 5年生	探究：実施期Ⅰ	探究：開始期
	国際5 5年生	タイWC	タイ
	国際5 5年生	中間論文	探究：中間まとめ期 ● 4・5年発表会
国際6 6年生	探究：実施期Ⅱ	最終論文	

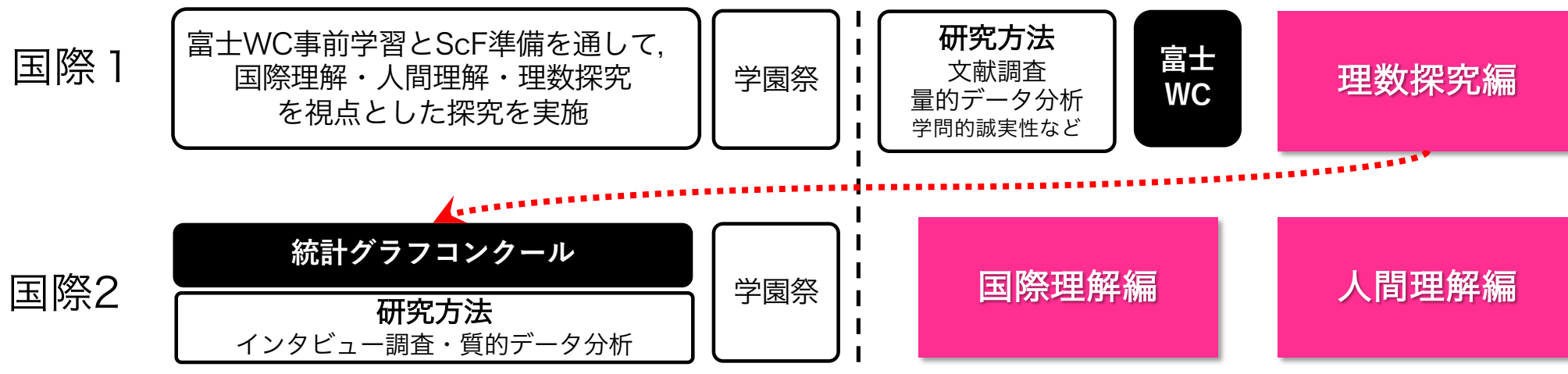
## 4-1. 「国際教養講座」：1・2年生のコア

2021年度より、基礎期の「国際教養」の体系化として準備・計画・実施

- 目標：国際教養の三本柱である国際理解・人間理解・理数探究の視点や方法の意識・獲得  
必修プログラム（コア）を「研究方法の実践」と「国際教養講座」で構成  
※道徳」や「学級活動」と連動させつつ、それぞれの時間はそれぞれの内容をしっかりと
- 国際教養委員会でプログラムを開発，学年担任団が運営・実施

生徒  
発表

～9月 10月～



## 4-2. ワークキャンプ 国内Ⅰ・国内Ⅱ・海外

### 国内Ⅰ：富士WC

1. 富士山周辺の地域性や豊かな自然を活かした人間理解・国際理解・理数探究フィールドワークを通して、**現代的な課題について考え、表現する力を伸ばす。**
2. 集団生活やグループ行動を通して、**人との関係をつくりだす力を伸ばす。**
3. 富士山周辺の文化について知ることを通して、**多様な文化について理解を深める。**

生徒  
発表

### 国内Ⅱ：沖縄WC

1. 沖縄の地域性や歴史文化、豊かな自然を活かした人間理解・国際理解・理数探究の活動やフィールドワークを通して、**現代的な課題について得られた情報を再構成してまとめ上げる力を伸ばす。**
2. 現地の方との交流を通して、**コミュニケーションの重要性の認識を深め、人との関係をつくりだす力を伸ばす。**
3. 沖縄の地域性や歴史文化を活かした人間理解・国際理解に関わる活動や学習を通して、**多様な文化についての理解を深める。**

### 海外：タイWC (2024年度～)

「国際教養」の集大成の一つとして、以下の実現を目指す。

1. 現地校交流を通して、多様な文化に生きる人々と意見を交わす機会を持ち、**現代社会の課題に対する意識を共有するとともに、議論する力を伸ばす。**
2. ホームステイや現地の生徒との交流・議論を通して、**外国語を用いたコミュニケーションの重要性の認識を深め、人との関係をつくりだす力をいっそう伸ばす。**
3. 海外で異文化を体験することを通して、**多様な文化・社会のあり方について理解を深めるとともに、自国の文化を再認識する。**

## 4 -3. 探究の概要

### ① 5・6年「総合的な探究の時間」・「理数探究」（選択必修）の一体運用

授業：国際6<sup>(1)</sup>/国際5〔総合的な探究の時間〕<sup>(1)</sup>・「理数探究」<sup>(1)</sup>は同時開講。

※この時間以外に、能動的に研究を進めることが求められる。

■個人研究 or グループ研究

■企業やNPO、大学教員などとの連携を推奨と分けて考える。

指導体制：22名（2024年度）

内 「総合的な探究の時間」担当 16名／「理数探究」担当 6名

### 型（スタイル）

#### ■アカデミック（AC）型：学術追究型

学問として未だ明らかとなっていないこと、課題となっていること、論争となっていることなどに取り組む研究

#### ■ソーシャルアクション（SA）型

##### ：課題解決型

社会・地域など、人々の生活や諸活動、そのコミュニティにおいて課題となっていることの解決方法を提案していく研究

研究経過報告書の提出（9月始業式）の段階で、最終決定

## 4 -3. 探究の概要

### 成果物と評価

#### 国際6 [総探] ・ [理数探究]

11月にそれまでの研究成果をまとめた論文（最終論文）を提出

#### 国際5 [総探] ・ [理数探究]

1月に最終的な研究成果をまとめた論文（中間論文）を提出

※5・6年と“継続研究”する場合もあれば、“別の研究”をする場合もある。

基本的には、中間論文・最終論文ともにそれのみで完結している。

#### □ フィードバック

- \* 「研究計画書」 ・ 「研究経過報告書」 ・ 「研究発表会」 でのフィードバック
  - \* 「国際5 / 6」 「理数探究」 の時間における「対話」を通じたフィードバック
- フィードバックの方法は、各研究指導者に任せられる

#### □ 評価

\* 総合的な探究の時間

**ISSの探究評価ルーブリック（2024年度改訂）** を用いて評価

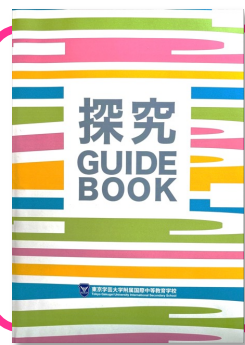
\* 理数探究 3観点（各6点：18点）のルーブリックに基づいた評価

## 4 -3. 探究の概要

### ②ISSチャレンジ：探究の校内コンテスト

- 目的：生徒個人および団体による独自の研究活動(課題研究)の奨励
- 対象：全学年・任意参加
- 表彰：研究の過程および成果を審査し，優秀な研究を表彰  
ファイナリストは2月の研究発表会でプレゼンテーション  
ファイナリストの審査には外部審査委員が加わる
- 指導体制：  
教員がメンターとして1研究に1名  
5・6年生は探究の指導教員が兼ねる
- 評価：全教員が2名で論文審査にあたり，ファイナリストを選考  
「ISSの探究評価ルーブリック（2024年度改訂）」を用いる

生徒  
発表



#### 『探究GUIDEBOOK（2024年度改訂）』

項目：「国際教養」とは／課題発見とリサーチクエスチョンの立て方／先行研究とは  
／探究方法／研究倫理／学問的誠実性／外部連携の方法／ポスター・口頭・論文のま  
とめ方／論文フォーマット／評価ルーブリック etc.

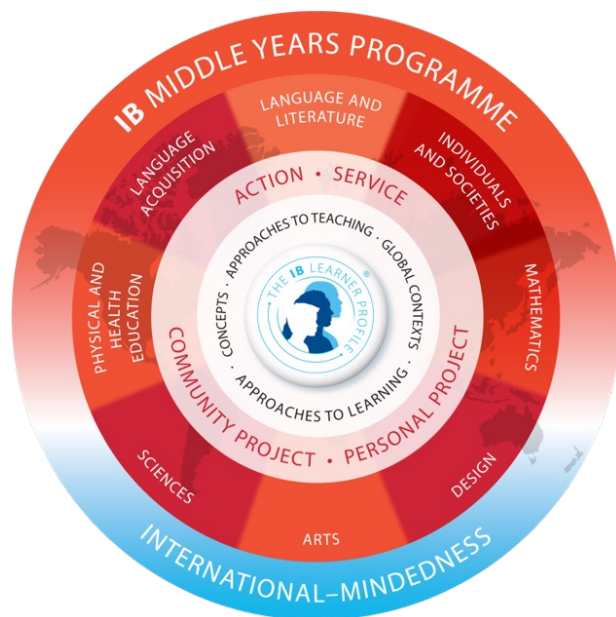
※1年生から6年生まで，その時々探究で活用できるガイドブックを目指し改訂

## 5. SA : Social Action

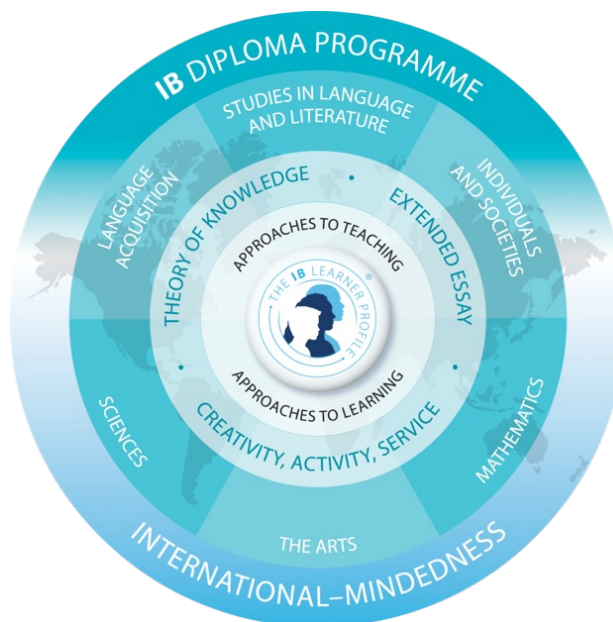
### SA : Social Action 「世の中に前向きなインパクトを与える活動」

- ・ IBプログラムでは各科目のさらに内側に、Service・Actionが設定
- ・ 本校は、開校当初から生徒のSAを促進

生徒  
発表



**MYP** : 「ACTION」 ・ 「**SERVICE**」



**DP** : 「CREATIVITY」 ・ 「ACTIVITY」  
・ 「**SERVICE**」 (CAS)

### SA : Social Action

本校生徒にとって

- 社会や社会課題と接続する窓
- 探究のテーマにつながる興味・関心の発見の場

となっている

# 5. SA : Social Action

## Level Descriptor と SA Records

### TGUISS Social Action Level Descriptor

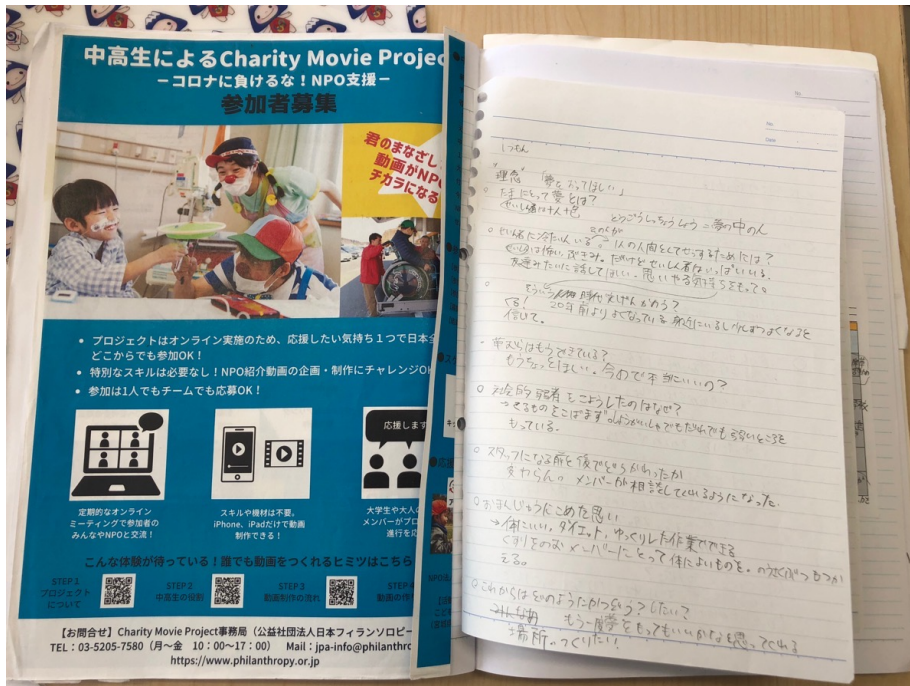
<b>Challenge Level</b>	<p><b>地域や社会、世界がかかえる課題にたいして、多くの人々や組織を巻きこみ、関心を促し、行動にうつすきっかけとなる社会貢献プロジェクト・研究活動を立ち上げよう。</b>                  Participation in self-sponsored service activity, inviting other participants, that makes a lasting impact on the community at large.                  ムーブメントをおこそう。</p>	
	<p><b>みずから社会貢献プロジェクト・研究活動を立ち上げて、友人やまわりの人たちと活動しよう</b>                  Participation in self-sponsored service activity, inviting other participants.                  サステイナブル（持続可能）な活動になっているか、考えながら活動しよう。</p>	
<b>Key Level</b>	<p><b>学校のニーズへ貢献しよう</b>                  Participation in service activities to answer the needs of the school community.                  サステイナブル（持続可能）な学校をめざそう。                  「私たち」の ISS を創りだそう。</p>	<p><b>NGO/NPO、企業、自治体、地域の活動に参加しよう</b>                  Participation in service activities sponsored by NGO/NPO, companies, local governments, and local communities.                  学校の外にててみよう。                  すでに支援に取り組んでいる組織から学ぼう。</p>
	<p><b>寄付をしてみよう</b>                  Donation                  「寄付」の効果や意味について考えよう。                  寄付の行方や、支援にまつわるお金の動きを知ろう。</p>	<p><b>学校・練馬・東京・日本・世界の課題について学び、取り組もう</b>                  Learning and making actions for the issues of our school, our community, Tokyo, Japan, and the world                  行動する前に、社会がかかえる課題を知ろう。</p>

TGUISS Social Action Record			
		年	組
氏名			
開始日 Date From	終了日 Date To	活動日数 Days of Service	総時間数 Total Hours
年 月 日	年 月 日		
Activity name			Activity Level <input type="checkbox"/> Challenge Level <input type="checkbox"/> Key Level
活動の内容 と振り返り Activity Description and Reflection	<p style="text-align: center;"><b>こんなことをふりかえてみよう！</b></p> <p><input type="checkbox"/>参加した動機、活動の目的、ニーズ</p> <p><input type="checkbox"/>活動の内容</p> <p><input type="checkbox"/>この活動で、「どんな人」に、「どんなこと」に貢献できましたか</p> <p><input type="checkbox"/>活動で学んだことは何ですか？</p> <p><input type="checkbox"/>学校で学んだこととどのような関係がありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>活動に最後まで責任をもって参加・実施できましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>安全に配慮できましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>一緒に活動する人々や参加者と交流できましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>参加した活動や、取り組んだ活動について、理解が深まりましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>みずから率先して活動ができましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>次は、どんな活動をしてみたいですか？</p> <p><input type="checkbox"/>調査で、どんなことがわかりましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>次に、何を調べてみたいですか？</p> <p><input type="checkbox"/>なぜその課題に興味を持ったのですか？</p> <p><input type="checkbox"/>寄付がどのように相手に届くか、わかりましたか？</p>		
活動担当者 Supervisor サイン / 印		年 月 日	保護者 Guardian サイン / 印

## 自身の活動の位置づけとふりかえり

## 5. SA : Social Action

### SA ジャーナル と SA賞



その時の自身の感性の記録

グッドアクションの表彰

各学年より選出：3名

## 5. SA : ISS actcoin project

ISSのみんなで世の中にインパクトを与えられる！

生徒  
発表

ISS actcoin project

Tokyo Gakugei University  
International Secondary School



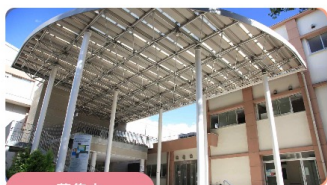
ISS actcoin projectは、  
本校が企業とコラボした協働プロジェクト

ソーシャルアクションの履歴をデジタルポイント（以下、コイン）で見える化するアプリ『actcoin』を活用し、学校・生徒個人のソーシャルアクションを記録

寄付キャンペーン“Chiritumo！”

本校の生徒が学内外で行うSAプロジェクトで獲得したactcoinの総コイン数がチームごとの目標に到達すると、非営利法人への寄付になる「新しい社会的価値の創出」をはかるプロジェクト

●生徒発表会場に「actcoin」獲得体験ブースを設置！  
actcoin運営チームの説明を聞いていただくと500コイン発行します。



募集中

社会貢献アプリ「actcoin」コイン  
獲得体験 東京学芸大学附属国際中  
等教育学校 第9回公開研究会

🕒 2024.11.23 (土) 10:30~11:30

📍 東京学芸大学附属国際中等教育学校

🎯 500



募集中

【ISS生限定】11/23開催 消費生  
活展ねりま

🕒 2024.11.23 (土) 09:00~16:00

📍 石神井公園区民交流センター

🎯 7000

## 6. 国際教養×IB

研究グループとしての取り組み：国際教養×IBグループ

### 国際教養の各段階における活動のATLラベリング

○国際教養とIBプログラムを**編む**試み

現状 ①富士ワークキャンプ（1年）のATLラベリング

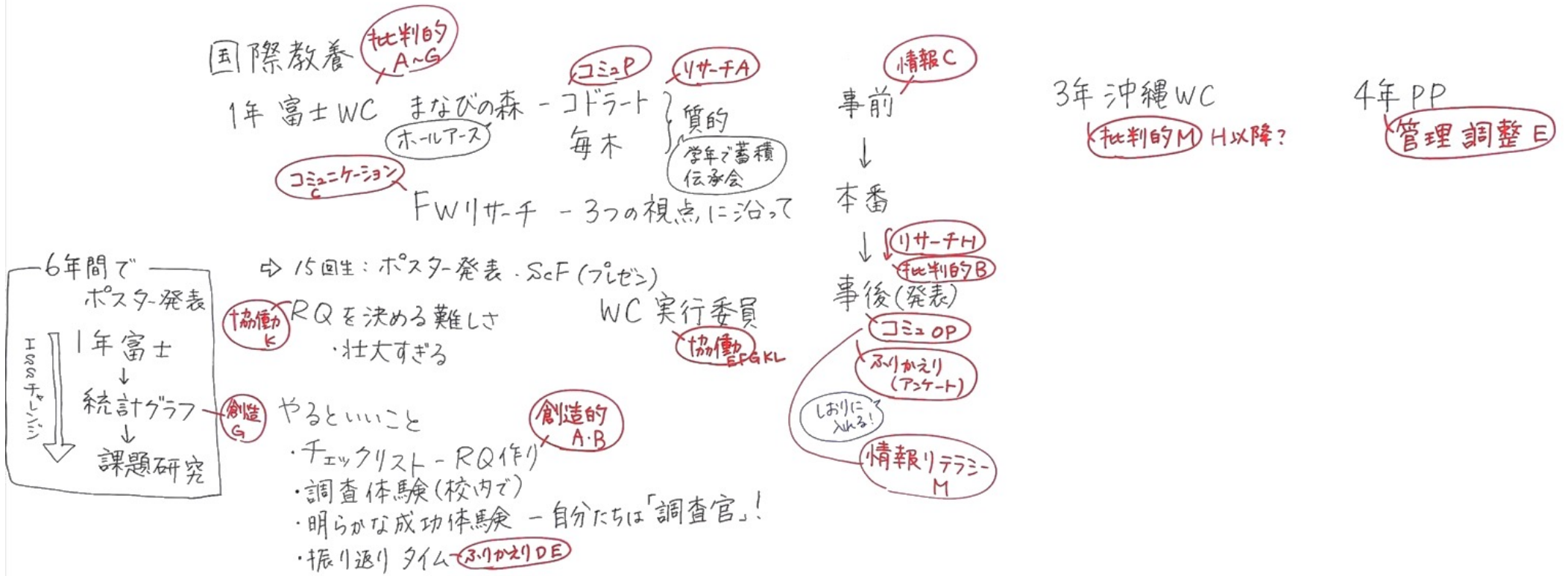
②国際教養講座：国際理解編（2年）のATLラベリング

③探究（4・5・6年）のATLラベリング を実施

本校は、国際教養・IBプログラム・SSH事業、と単独で柱となり得るプログラムが複数実施されており、各プログラム間の連携・つながりの絶え間ない確認と、その更新が必須である、と考える。

# 6-1. 国際教養 × IB

## ① 富士ワークキャンプ (1年) のATLラベリング



## 6 -1. 国際教養×IB

### ①富士ワークキャンプ（1年）のATLラベリングを実施して

□ ATLの各スキルの項目には、段階やカテゴリーが存在するのでは。

ATLスキルの獲得という点から見ていくと、1年生富士WCでは「この段階まで」といったことが、意識して指導できるのではないか。

ex. 批判的思考スキルのA～Gが1年富士。H以降は3年沖縄、など。

□ 現実にそくして、1年生の段階でスキル獲得100%を目指すことはできない。

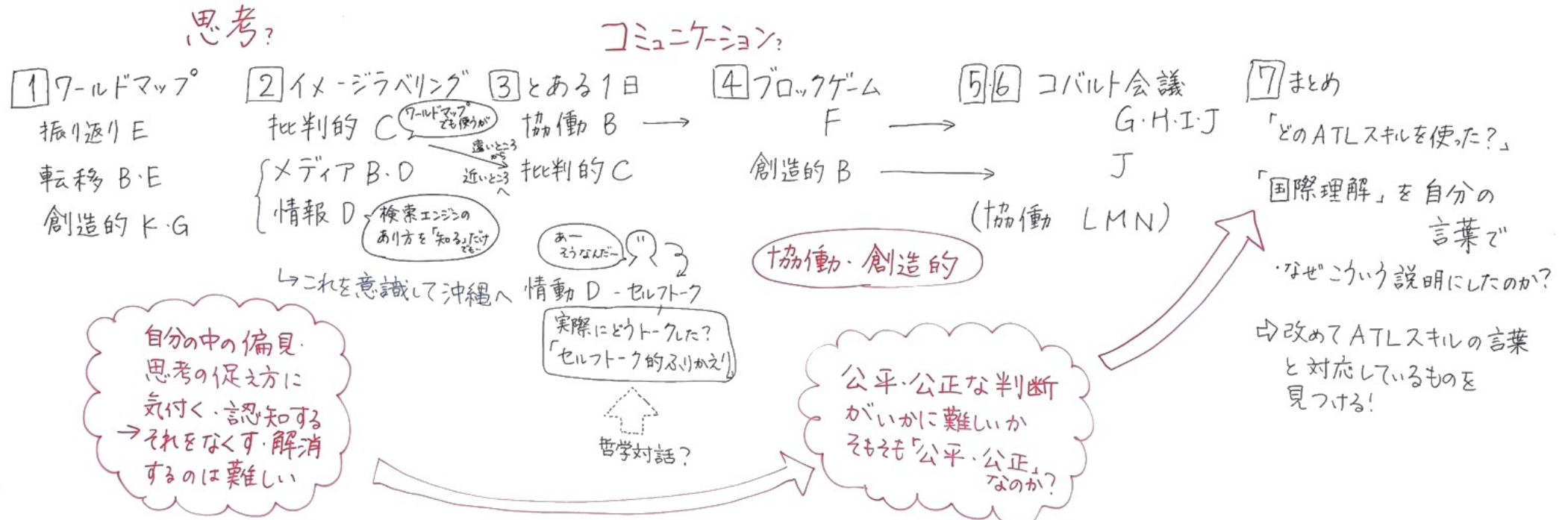
生徒は情報過多などにより、教員は全方位・全深化の事前指導（RQの指導、データ収集・分析の指導、考え方や発信の仕方の指導etc.）などにより、負担が大きい

□ G&Rのふりかえり・WCのふりかえり項目に活かせる。

「今回の活動で、どのスキルを使用したと思いますか、それはなぜですか」など。

# 6-2. 国際教養×IB

## ②国際教養講座：国際理解編（2年）のATLラベリング



## 6 -2. 国際教養×IB

### ②国際教養講座：国際理解編（2年）のATLラベリングを実施して

#### □ Step7に向けて、段階的なスキルの獲得が起きるのでは。

Step4・5・6で「協働スキル」・「創造的思考スキル」

Step3では、「情動」Dのセルフトーク的ふりかえりを意識的にやっていく

#### □ Step7：最後のふりかえりの仕方

①Step1の冒頭に「自分が今考える”国際理解”」を“短め”に書かせる。

②Step7では、講座を経て自分の言葉で”国際理解”とは何か、を、なぜその文章にしたかも含めて書いてみる。

③その後、ATLスキルのリストを示し、書いた文章のどこが、どのスキルとリンクするかをチェックしてみる。

## おわりに

### 国際教養×IBグループより

研究グループとして、**教師の視点でATLスキルの獲得の機会・意識する機会を視覚化**してみました。検討・分析して行く中で、はたして生徒たちはこの通りにATLスキルを獲得するのだろうか、「思いもしないところで、そんなATLスキルを！」ということがあるかもしれない、と話題にのぼりました。

そこで、今回の「生徒探究活動発表」では、**生徒たちに自身の活動のポスターを作成する際に、あらためてATLスキルの何を獲得できた・意識できたと考えるか、も記載してみてください**、と伝えました。

また、**国際教養の“三本柱”との関連**についても示してもらっています。

ぜひ、参加の皆様には**生徒の活動内容について聞いていただく際に**

- **どんなATLスキルを意識したのだろうか**
- **ATLスキルをどのようなものだと思えているのだろうか**

についても、感じていただければ、と思っています。

# 探究活動が自らできる生徒を育成するシステム



生徒自らが研究を行えるようになるために必要な能力。それを身につけるための環境をご用意しております。

## Input 【国際教養】視野を広げ、実践力を身につける！

「国際教養」とは、国際社会の中で共生・共存できる力を育成するために設定された本校独自の学習領域であり、6年間を通じて、各教科の枠を超えた現代的課題を多様な観点から学び、プレゼンテーションやディスカッション運営などのスキルを磨きます。外部の方をお招きして講演会を開催したり、生徒自ら主体的なワークショップを企画、運営したりしながら、視野を広げ、実践力を身につけることができます。

※例年の流れです。変更になる場合があります。



### 国際教養：3つの柱

**国際理解：**  
自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。

**人間理解：**  
社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。

**理数探究：**  
身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点からとらえ、社会に活用していく方法について考える。

### PP (パーソナルプロジェクト)



パーソナル・プロジェクトは、4年生が取り組むMYPの集大成のプロジェクトです。生徒は、自分で選んだ創造的で革新的なゴールを達成するために、これまで様々な教科で学んだ知見やスキルを活用し、最後に下級生に向けてその内容を発表します。

**プロジェクト例：**「絵本で解決!〜子供の貧困問題〜」「アボカドの種と変色の関係性」

### 課題研究



自ら研究課題を見だし、適切な研究方法を実践し、自分自身による考察を通して新たな知見を得て、それを他者と共有することで課題解決に貢献します。後期課程の約2年をかけて研究を進めます。

**研究例：**「ワカモノの社会貢献活動がより活躍できるネットワークモデルの構築」「一般化されたフィボナッチ数列の加法定理について」

### WC (ワークキャンプ)



1年生・3年生は国内で、5年生は海外で宿泊行事(ワークキャンプ)を行います。

### FW (フィールドワーク)



各教科の特別学習として、教室の外で、実際に目で見て体験することを目的にフィールドワークに出かけます。